

咬合挙上で悩んでいませんか？ そのバイブルが、ここに誕生！



補綴治療時に咬合高径の増大、すなわち咬合挙上の必要性に迫られることがある。しかし、咬合挙上の諸事項についてはさまざまな考え方があり、ときに悩ましい問題になる。

本書は、東京科学大学の補綴専門医2人がそれらの問題を考察し、これを月刊誌「ザ・クインテッセンス」2021年3～6月に4回にわたり掲載して大きな話題を呼んだ連載「咬合挙上の今あるエビデンスと臨床手技教えます」の内容を大幅に改編。国内外の文献をあらためて渉猟し、咬合学の基本的事項をふまえつつ学問的に、かつ臨床的にまとめ上げた。咬合挙上はもちろん、咬合再構成や咬合治療が検討される際にも大いに参考になる歯科医師のバイブルが、ここに誕生！

本書の目次は裏面へ▶

本書内「推薦の言葉より」(抜粋・敬称略)

『咬合挙上は現象としては咬合高径の拡大ですが、そこには顎関節と咬合接触関係が密接にかかわるので、実施に当たってそれらを含めた顎口腔系全体の知識が必要なのは言うまでもありません。著者らは、それを余すところなくここにまとめ上げています。』

藍 稔(東京科学大学名誉教授)

私も本書を推薦します！(敬称略)



ともすると大きな議論を呼びかねないテーマだが、ここまで客観的かつ体系的にまとめ上げられた本がこれまでにあっただろうか。混乱しがちな下顎位については用語を含めて明確に整理されており、臨床家が抱える補綴設計の悩みにも具体的に答えられている。

実践に役立つ内容が豊富に盛り込まれており、これはまさに、**咬合再構成に取り組む際の必読書といえるだろう**。ぜひ手元に置き、繰り返し読んでいただきたい。

谷田部 優
(東京都開業、日本補綴歯科学会東京支部監事、東京科学大学臨床教授)



本書の主題は、難解とされる中心位を含む3つの下顎位を基準とした咬合挙上法です。著者らは、それら各々の方法の**専門用語の定義、歴史的背景、エビデンスを非常にわかりやすく解説され、またそれぞれの臨床例も提示して実践的に本書を構成されています。**

私は咬合挙上の理論と臨床的な手技を整理するうえでの座右の書として、また後輩の指導を行う際の教材としても本書を愛用したいと考えています。世代や専門性を問わず、すべての歯科医師にぜひ読んでいただきたい一冊です。

山崎 治
(東京都内勤務、日本臨床歯科学会東京支部理事)



私は、本書のもととなる雑誌連載をむさぼるように読み、誰よりもその書籍化を望んでいました。そして大幅に加筆された本書は、今後なにか革新的な方法が出てこない限り、日本において咬合挙上に関するこれ以上の書籍は出てこないし、必要ないとさえ感じさせる内容でした。

本書には、私のような咬合挙上に対して無知だった者の思考が読まれているかの如く、**各章にあらゆる疑問に対する周到な答が、エビデンススペースで用意されています。**

本書に出会わなければ、私は咬合挙上という大海原の中で遭難したままだったでしょう。

三好俊太郎
(東京都内勤務、スタディクラブITD 理事)



Features

●咬合挙上のみならず、咬合それ自体の知識も得られる！ ●きわめて論理的かつ明快な文章構成 ●努めて文献ベース・エビデンスベースで論述されながらも、著者らの意見・臨床実感や臨床経験もためらわずに言及 ●本書で解説している咬合挙上時の基準は「中心位」「タッピングポイント」「咬頭嵌合位」の3つ。それぞれの概要と実際の臨床手技が学べる！

『咬合挙上 その意思決定と臨床手技』 目次

プロローグ 咬合挙上, する? しない?

- P-1. 咬合挙上とは?
- P-2. “咬合高径”は「下顎の“垂直的な”位置」?
- P-3. 下顎は剛体ではない



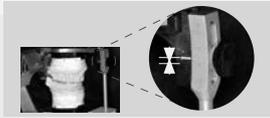
1章 重要な下顎位の定義を理解しよう!

- 1-1. 咬頭嵌合位
- 1-2. 中心位
- 1-3. 中心咬合位
- 1-4. 顎頭安定位
- 1-5. 筋肉位



2章 咬合高径はどうやって評価する?

- 2-1. 下顎安静位に基づく評価
- 2-2. 発音時の下顎位に基づく評価
- 2-3. 顔貌計測
- 2-4. エックス線写真による評価
- 2-5. 補綴空隙確保の観点からの評価
- 2-6. 患者の感覚(快適性)に基づく評価



3章 咬合挙上を検討する患者への診察, 検査と3つの臨床手技

- 3-1. 咬合挙上前のチェック項目
- 3-2. 咬合挙上を安全に行うためにはどうする?(Abduoのレビュー)
- 3-3. 咬合挙上の概要



4章 中心位を基準とした咬合挙上法

- 4-1. 中心位を基準として咬合挙上する意味

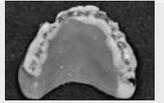
Term 若手歯科医師も理解がすむ! 用語解説をコラム掲載!

- 終末位 ●ナソロジー ●JGPT-6における“中心位”の定義 ●偏心運動 ●歯列接触癖 (tooth contacting habit) ●生物心理社会的モデル ●ジグ ●Dahlのコンセプト ●ミュチュアリープロテクテッドオクルージョン ●グループファンクション ●理想咬合 ●tooth wear ●ロングセントリック ●P.M.S.テクニック

- 4-2. 本法における「下顎頭=回転中心」の意味するところ
- 4-3. 論文から考察する中心位を基準とした咬合挙上法のポイント
- 4-4. 中心位を基準とした咬合挙上の実際

5章 タッピングポイントを基準とした咬合挙上法

- 5-1. タッピングポイントを基準として咬合挙上する意味
- 5-2. 収束したタッピングポイントと関連する下顎位
- 5-3. 本法でオクルーザルプリントを用いる目的
- 5-4. タッピングポイントを基準とした咬合挙上の術式
- 5-5. タッピングポイントを基準とした咬合挙上の実際
- 5-6. “3つの水平的下顎位の設定基準”のいずれを採用するのか?



6章 咬頭嵌合位を基準とした咬合挙上法

- 6-1. 咬頭嵌合位を基準とした咬合挙上
- 6-2. 咬頭嵌合位を基準とした咬合挙上の禁忌症
- 6-3. 咬頭嵌合位を基準とした咬合挙上の概要
- 6-4. 咬頭嵌合位を基準とした咬合挙上の実際



7章 咬合挙上にもない咬合平面を修正する際の判断基準

- 7-1. 咬合平面の修正は必須か?
- 7-2. 咬合平面の修正を検討する際のチェックポイント
- 7-3. 咬合平面の修正を行う判断基準
- 7-4. 咬合平面の設定方法

8章 本書で紹介した咬合挙上法を臨床応用する際の注意点

- 8-1. 咬合との関連が不明な“主観的”低位咬合や全身症状への対応
- 8-2. 咬合挙上の臨床実感と限界

Trivia 著者の「もっと書きたい!」、読者の「もっと知りたい!」に応え、本文では書ききれなかった補足事項を豆知識的にコラム掲載!

- 保母の著書に石原が寄稿した「推薦のこぼし」 ●ゴシックアーチ描記法における中心位 ●Willis法 ●「中心咬合位と咬頭嵌合位のズレ」という表現について ●リーフゲージによる下顎の誘導 ●早期接触で障害が生じる場所 ●中心位を基準とした咬合挙上法はグローバルスタンダード? ●タッピングポイント=咬頭嵌合位? ●「いきなり固定性暫間装置」はNG? ●フェイスボウトランスファーについて

著者



和田淳一郎(わだ・じゅんいちろう)
【略歴】
2006年 東京医科歯科大学歯学部卒業
2011年 東京医科歯科大学大学院修了(部分床義歯補綴学)
2013年 東京医科歯科大学歯学部 助教
2022年~2023年 トルク大学(フィンランド)客員研究員
2023年 東京医科歯科大学歯学部 講師
2024年 東京科学大学講師 講師
【主な所属・役職】
日本歯科専門医機構認定補綴歯科専門医/日本補綴歯科学会指導医



若林則幸(わかばやし・りのゆき)
【略歴】
1988年 東京医科歯科大学歯学部卒業
1992年 東京医科歯科大学大学院修了(歯科補綴学)
1994年 東京医科歯科大学歯学部 助手
1997年~1998年 フロリダ大学(米国) 客員教授
2006年 岩手医科大学歯学部 助教授
2009年 東京医科歯科大学歯学部 准教授
2013年 東京医科歯科大学歯学部 教授
2017年 東京医科歯科大学 歯学部附属病院長
2020年 東京医科歯科大学 理事・副学長(教育担当)
2024年 東京科学大学 理事・副学長(教育担当)、同歯学部 教授
【主な所属・役職】
日本歯科専門医機構認定補綴歯科専門医/日本補綴歯科学会指導医

きりとり線

注文書

咬合挙上 その意思決定と臨床手技

モリタ商品コード:208041016

冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒)		
●TEL	●FAX	支店・営業所

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。
※ご指定歯科商店がない場合は送料をいただき、代金引換宅配便でお送り致します。